

- ・本誌、平成25年7月号掲載「東京都23区ごとの孤独死実態の地域格差に関する統計」論文において誤りがありました。お詫びして訂正いたします（編集部）。
- ①5ページ右段下から9行目から4行目までを下記の記述に差し替えます。
- ②表5 「平成2・7・12・17・22年の孤独死事例での死亡時年齢」の平成2年女性（赤字部分）

女性孤独死でも、中央区、荒川区を除き、平成2年から22年にかけて死亡時年齢は上昇しており、上昇幅は荒川区で最も高かった。死亡時年齢が最も高かったのは平成12年の台東区であり、平成2年の千代田区が最も低かった。

表5. 平成2・7・12・17・22年の孤独死事例での死亡時年齢

(単位 歳)

		千代田区	中央区	港区	新宿区	文京区	台東区	墨田区	江東区	品川区	目黒区	大田区
男性	平成2年	67.0	57.0	62.7	50.8	59.5	59.1	57.0	57.9	55.6	54.2	54.5
	平成7年	73.0	64.0	59.3	57.1	53.6	79.8	63.0	61.4	58.0	58.6	56.1
	平成12年	67.5	53.5	61.7	56.5	61.0	63.4	61.9	60.4	59.6	59.9	60.2
	平成17年	60.0	58.7	61.7	60.9	62.9	62.6	63.3	63.3	63.6	62.8	61.6
	平成22年	57.0	59.9	61.4	63.4	65.5	68.7	66.6	66.4	63.0	63.0	63.9
女性	平成2年	58.7	79.5	63.9	68.6	66.8	64.8	73.2	70.2	72.2	64.8	65.0
	平成7年	78.0	74.6	68.4	67.0	75.4	71.2	66.8	72.2	68.7	70.8	70.0
	平成12年	73.7	73.5	75.6	69.8	71.7	79.1	77.1	67.8	68.4	69.7	74.4
	平成17年	73.9	71.4	75.0	69.6	68.3	75.8	73.0	72.2	71.3	73.6	74.1
	平成22年	78.8	70.8	69.6	72.0	74.8	75.7	75.0	77.9	77.1	77.1	77.1

		世田谷区	渋谷区	中野区	杉並区	豊島区	北区	荒川区	板橋区	練馬区	足立区	葛飾区	江戸川区
男性	平成2年	57.2	60.0	53.3	56.2	55.6	56.1	55.9	56.8	55.3	56.1	54.5	56.4
	平成7年	56.4	58.5	58.2	57.2	58.7	58.7	59.5	57.0	57.2	59.4	53.9	57.0
	平成12年	59.8	59.4	59.6	57.3	62.2	63.0	62.3	57.6	60.4	60.2	60.9	58.8
	平成17年	60.1	58.2	59.8	60.5	61.8	61.7	62.1	63.1	60.4	63.5	62.3	61.0
	平成22年	64.7	61.1	61.4	62.4	63.6	67.1	66.9	63.7	62.9	64.3	63.9	63.9
女性	平成2年	66.4	61.9	67.0	69.2	68.8	63.3	74.6	63.3	68.2	69.7	60.6	67.8
	平成7年	71.3	66.6	67.5	70.4	75.0	75.0	62.7	69.5	73.0	72.0	69.0	69.5
	平成12年	69.6	72.1	71.9	64.8	68.5	75.4	67.5	70.3	70.1	70.9	76.6	70.0
	平成17年	69.2	69.1	70.5	71.2	69.8	73.8	75.0	72.6	72.9	70.0	74.2	70.1
	平成22年	76.3	74.1	72.0	74.3	74.8	76.3	73.6	72.0	74.7	74.6	73.3	73.3

- 注1) 男性孤独死での多重比較の結果、平成22年で「台東区-中野区」、「台東区-練馬区」の間で有意差が検出された。
- 2) 女性孤独死での多重比較の結果、女性では、平成7年で「台東区-葛飾区」の有意差が認められた。
平成12年の女性は、Welchの検定では有意差が認められたが、多重比較ではいずれの区でも有意差が検出されなかった。
- 3) 上記表の死亡時年齢は、監察医務院孤独死統計表の階級データから平均値を算出しているが、分散分析・多重比較では個々の値から算出した平均値を算出している。